

「大切な心と体を守るために」
 ～「性暴力」の被害者・加害者・傍観者にならないようにするために～



1年生 保健体育（保健分野）

指導の
ポイント

- 性暴力についての様々な知識を身に付けるとともに、人との「距離感」について、事例をもとに考え、身近な問題としてとらえることができるようにする。
- デートDVについて、事例をもとに「好きならOK」という思い込みを表面化し、「一方的に」「相手の気持ちを無視」が暴力につながる可能性を整理する。

本授業の
位置付

中学校学習指導要領（保健体育：保健分野）との関連

(2) 心身の機能の発達と心の健康

- イ 心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

○文部科学省教材（中学校用）スライド資料、動画資料を使用。

性暴力とは？

性暴力とは、あなたが望まない性的な行為のことです。
 相手が恋人や家族、顔見知りだったとしても、あなたが望まない性的な行為はすべて性暴力です。

- 相手がいやがっているのに、性的な言葉を言ったり、体を触ったり、見せつけたりするなど、性的な言葉や行動で人を傷つけることは性暴力です。
- 体に触る暴力だけが性暴力ではありません。
- 性別にかかわらず被害にあります。

体に触る性暴力 体に触らない性暴力

- 悪いのは加害者です。
- 被害にあった人は悪くありません。
- どんな理由があっても性暴力は決して許されません。

「性暴力」について、正しい認識をすることができるよう、教材を活用しながら、丁寧に説明する。
 デートDV、SNS被害の例から、支配・コントロールなども暴力として捉えることができるようにする。

**自分と相手を守るもの
～距離感ってなに？～**

自分の心や体は自分だけのものです。他人との距離は自分自身で決めることができます。自分と相手を守る時に距離感が役立ちます。

体の距離感
心地よい距離は人によって違います。近寄られるのをいやがる人もいます。

心の距離感
どんなに仲のよい相手でも、いつも自分と同じ気持ちではありません。相手の気持ちを大切に、自分の気持ちも大切にしましょう。

あなたは相手と接するときに心地よいと感じる距離を考えてみましょう。
 ①家族 ②友達 ③知らない人

僕はAだと思う 私はBだと思う

違う考えの人もいるんだね

自分と相手を守る「距離感」について意識することは「性暴力」を防ぐことにつながることを理解できるようにする。
 よりよい人間関係をつくる上では「同意」や「尊重」が大切であることを理解できるようにする。

使用教材・準備物・留意点

- 過去に辛い経験をもつ生徒がいる可能性を常に念頭に置き、事前アンケートを通して生徒の実態や不安の有無を把握するなど、心理的安全性の確保に十分配慮して授業を実施する。
- 保護者と指導内容を共有し理解を得ることで、家庭における安全管理や保護者の意識向上へとつなげていく。

※スライド・イラスト：文部科学省「生命（いのち）の安全教育」の教材より引用

本時の展開

本時の目標 ○性に関する適切な態度や判断、行動の選択が自他の安全を守るために必要であることを理解し、安全を確保するための適切な意思決定・行動選択を判断できるようにする。

学習内容・活動等	留意点等
<p>○本時の学習内容について確認する。</p> <p>「性暴力」の被害者・加害者・傍観者にならないようにするために</p> <p>○「性暴力」にはどのようなものがあるか知る。</p> <p>データから…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20歳未満の被害が多い ・加害者が身近な人である場合も少なくない <p>どのようにすれば、被害に遭わないか、加害者にならないか。</p> <p>○身近な事例から考えたことをグループや全体で交流する。</p> <p>・事例1「デートDV」…好きだったらいいの？</p> <div data-bbox="167 862 678 1209"> <p>性暴力の例【デートDV】</p> <p>DV（ドメスティック・バイオレンス）とは、結婚している相手など親密な関係の相手からふるわれる暴力のことです。恋人同士の間で起こる暴力のことを「デートDV」と言います。</p> <p>どんなことがデートDVになるの？</p> <p>身体的暴力 精神的暴力 性的暴力 経済的暴力</p>  <ul style="list-style-type: none"> ● 暴力を手段として、相手を思いどおりにしたり、一方的に言うことを聞かせようとします。 ● 殴る、蹴るといった体に対する暴力だけでなく、相手をバカにしたり無視をするといった行為もDVです。 <p>こんな思い込みをいませんか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 相手を愛しているから、暴力は必要ない。 ● 愛があれば暴力は必要ない。 ● 相手が悪いから暴力は必要ない。 <p>親しい関係でも自分と相手の気持ちを大切にしましょう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分がいやだと思ったことはいやと伝える ● 相手がいやがることはしない </div> <p>相手の気持ちや相手の同意を確かめないと…</p> <p>思い込みや勘違いで、相手を傷つける可能性がありそう…</p> <p>・事例2「SNS等を通じた被害」</p> <p>…自分の情報を伝えていいの？</p> <div data-bbox="167 1321 678 1668"> <p>性暴力の例【SNS等を通じた被害】</p> <p>インターネットやスマートフォンは、性暴力に巻き込まれてしまうきっかけになることもあります。加害者や被害者にならないためにはどうすればよいでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● インターネット上で知り合った相手を簡単に信用しない。 ● インターネット上で知り合った相手はもちろん、交際相手や友達であっても下着姿や裸の写真を撮ったり、撮らせたり、送ったり、送らせたりしない。 ● 問題が起きたときは、一人で悩まず周囲の信頼できる大人や警察、相談窓口にご相談しましょう。  </div> <p>知らない相手との「距離感」をしっかり考えないと…</p> <p>もし下着姿や裸の写真を送ったらどうなるのかな…</p> <p>相手との「距離感」を大切にしたり、意識したりすることで、よりよい人間関係を築ける。性暴力防止につながるね。</p> <p>○振り返りをワークシートに記入する。</p> <p>○「もし被害にあいそうになったらどうするか」を考える。</p> <div data-bbox="167 1937 1045 2038"> <p>「嫌だ」としっかり伝える。</p> <p>逃げたり、距離をとったりする。</p> <p>一人で抱え込まず相談する。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習中に不調を訴えて退出したい等の場合は教師に申し出ること等を伝える。 ・自分の気持ちを伝えられないなど、非対等な人間関係が、性暴力につながる可能性があることを気付かせるようにする。 ・対話を通して、安心できる「体の距離感」「心の距離感」は、人によって違うことを理解できるようにする。 ・「もし友達が被害者や加害者になりそうだったらどうするか」について問うことで、傍観者にならない、という視点で考えることができるようにする。 ・相談先や相談方法について、具体例を示す。

※スライド・イラスト：文部科学省「生命（いのち）の安全教育」の教材より引用

本実践の成果と課題について

本実践から考えたこと

中学生はスマホやSNSの使用が日常化しており、性的画像の送受信による被害や、性的同意が曖昧なままの身体的接触によるトラブルは、どの子にもどの学校にも起こり得る状況になっていると感じている。本実践の導入段階では、デートDVにおける束縛を「愛されている証」と考える生徒も複数おり、性暴力への認識が極めて低い実態があることが分かり、予防的観点からの「生命（いのち）の安全教育」の必要性を痛感した。

本実践では、文部科学省の指導指針に基づき、「性暴力とは何か」を生徒が自分のこととして捉え、「自他の尊重」「SNSの危険性」「性暴力」「デートDV」の事例把握から対処法の習得まで、内容を網羅的に学習できるよう構築した。しかし、指導すべき内容が多岐にわたり、一つ一つをじっくり扱うことができなかった。今後はさらに厚みのある計画とするため、学年ごとに内容の重点化を図っていきたい。課題を焦点化し、探究活動の時間を十分に確保することで、主体的な学びを実現することができると思う。

生徒の様子・ワークシートの記述から

授業後の振り返り等から、生徒が自分事と捉えて考えることができたことを確認することができた。
<生徒のワークシートの記述から>

- ・性暴力について全然何も知らなかったし、聞いたことがあったけど、私には関係ないと思っていました。でも今日勉強してみて、性暴力の被害者、加害者のどちらにもなり得ることがわかって少し怖かったです。・被害者・加害者にならないように、自分の意見をしっかりと伝えたり、相手のことを考えられるように気をつけたりしたいなと思いました。
- ・中学生になって、性行為などの話題がよく出るけれど、軽く考えてはいけなし、相手を尊重しながら自分の気持ちを伝えることが大切だと改めて思いました。・人間関係は、近ければ近いほどいいってことじゃないから、ほどよい距離感をとったり、お互いがお互いのことをしっかり考えたりして、自分と相手を守っていけたらいいと思いました。
- ・改めて性暴力って怖いなって思ったし、自分ももし、知らないうちに加害者になっていたらと考えるとこわいので、相手の気持ちを考えて、お互いに気持ちよく過ごせるようにしたいと思いました。

教育課程・学校安全計画への位置づけ、指導体制等について

今回は、保健体育科（保健分野）の1時間として計画したが、内容が多岐に渡るため単発の指導には限界がある。多角的な視点からの教育や段階的・継続的な指導が不可欠であり、道徳や特別活動、総合的な学習の時間を含め、教育課程・学校安全計画に明確に位置付ける必要性を強く実感している。

- ・特別活動での展開：
「より良い人間関係の構築」の観点から、デジタル性暴力防止やSNSにおける適切な距離感について話し合う実践が有効である。
- ・学校安全計画への反映：
各項目に位置付け、系統的な教育の実施、校内体制の整備（発生時の対応、教職員研修、保護者・地域連携）を進める必要があると感じた。一部の教員や授業に限定せず、学校全体で生徒の安全・安心を支える体制づくりが重要である。

パートナー校との連携について

本校中学校区の3校で指導案検討・授業実践を行い、計画段階から各校種の実情を共有できたことは極めて有益であった。性暴力の低年齢化・深刻化を鑑みると、小学校段階から系統的な指導計画を策定することの重要性を再認識した。